



“ホッと”なネットワーク!

かんちゃん通信 第11号

ほほ笑み号 2019年2月10日発行

かんちゃんの小さな家 この秋で5周年に♡♡♡

体験・体感

ホットルーム(多文化共生・地域交流)の活動

子どもたちに 多くの気づきと発見・感動を!



中国のお話を聞いたり
ギョーザを作ったりしまし
た。「ギョーザのつつみ方
がわかったよ♪」(9月)

地元の「よし」を使った
クラフト。「初めてでし
たが、おしえてもらっ
て、うまく作れました
!」(8月)



12月の「ホットルーム」は、かん
ちゃんの小さな家と安土学区
まちづくり協議会(人権部会)
が主催者となって、初めての
「多文化共生フェスタ in あづ
ち」を開催。(2面をご覧ください)
↑上の写真は、みんなで
「おやつタイム」、おとなの皆さ
さんも体験・食感? パステウを
味わいながら、参加者による
交流タイム♪

♡アフリカのえんそうをしていた
人は、はくりよくがあって楽しかった
です。(2年)♡パステウは、おもっ
ていたあじとぜんぜんちがいました。
そうぞうでは、あまいとおもっていた
けど、ちがっていました。でも、おい
しかったです。パステウを毎日たべた
くなりました。(2年)♡三線は、ず
っと聞いていたいな~と思いました。
特に歌がよかったです! すっきり
しました!! (5年)♡わたしは、世
界の音楽を聞けなかったけれど(調理
の係を担当)、パステウが作れて良か
ったです。油であげている時が、とて
もおもしろかったです。パステウが
好きになったので家でも作りたいで
す。(6年)

12月の多文化共生フェスタに参加
した子どもたちの声・・・新しい世界、
新しい「自分」に出会う瞬間・場面だ
ったのですね。子どもたちの心が、
とってもよく伝わってきました。



(2)

初の開催 2018多文化共生フェスタinあづち



テーマ ちがい(多様性)・つながり(ゆい)

世界の音楽・リズム 「迫力あった!」「楽しかった!」



12月8日(土)、安土コミュニティセンター大ホールを会場に、「2018 年(第1回)多文化共生フェスタ in 安土」を開催しました。テーマ、「ちがい(多様性)・つながり(ゆい)」のもとで、子どもをまん中に老若男女、外国籍・外国をルーツとする人たちとともに、120 人が出会いと学びのフェスタ「地球のリズム」を奏でました。

オープニング演奏
セレモニー & 中学生からのメッセージ
(地域で暮らす外国人の思いより)
パート① 沖縄の唄と三線の演奏
沖縄三線サークル「くるる」
パート② 打楽器・笛の演奏
ラテン・アフリカ音楽
演奏グループ「ドゥニアダンシ」
パート③ みんなでインドネシアの
「ケチャ」を楽しもう♪
エンディング 多文化共生社会を考える
「一枚の写真」ほか
おやつと交流タイム (ブラジルの
おやつ「パステウ」をどうぞ♪)



全員が3つのグループに分かれて、それぞれ異なったリズムを、手拍子や身体を使って表わすインドネシアの「ケチャ」♪「ドゥニアダンシ」の皆さんのリードで、参加者全員が“のりのり”のステージでした♪

参加された皆さんより

Foi uma tarde divertida
mas que faltou divulgação
para atrair mais
estrangeiros, e também
mais variedades. Mas foi
muito válido.



今日は、とっても楽しかったです。ただ、外国人が参加できるためのPRが少し足りなかったかな。それと、いろんな文化の紹介があれば、もっとよかったですね。でも、このイベントを企画してくれてありがとう!とっても意味のあるイベントです。



とっても楽しそうな「感想」が登場!
ありがとう、また書いてね♪



今回は、スタッフとボランティアの皆さんの6人が、120枚のパステウを準備しました。しかも「あつあつ」のタイミングで!



かんちゃんの小さな家のロゴマーク入りのフェスタの缶バッジ...これもボランティアさんの活動で作りました。

二人の中学生の“意見発表”をきっかけとして！！



(地域で暮らす外国人の思いより)

多文化共生フェスタの「意見発表」では、二人の中学生が思いを語ってくれました。「少し緊張しました」とのことですが、本当にありがとうございました！そのなかで、「家族で過ごす時間が少ない」「賃金格差などの仕事の問題がある」等をはじめとした指摘は、今日の日本社会が考え解決すべき課題といえます。

参加者からは、「実体験からの思いを話してくださり、心に響きました。」「意見発表には考えさせられることが多く、これからの地域の活動に活かしていきたいと思います。」という感想が寄せられています。ここでは、紙面の都合で発表の一部になりますが紹介します。

私は日本で生まれ、育ち、そして親と一緒に日本で暮らしています。日本は技術が優れていて、安全でとてもいいところです。ブラジルに行ったことがない私ですが、ブラジルには親戚や祖父母が住んでいます。ブラジルに関する情報は彼らから得ています。(中略)

日本は、家族と過ごせる時間が少ないです。これはたくさんの方が感じていることだと思います。ブラジルでは学校の時間が短いため、午後からはベビーシッターや祖父母と過ごします。学校の休日も大人と同じで、商売している人も休みが

と同じです。日本と違って、部活もないので土日は家族と一緒に過ごします。もうひとつの日本の問題点は、労働です。例えば、日本人と外国人が同じように働いていても、日本人の方が高い給料をもらえる可能性が高いです。全てのところがそういうわけではありませんが、家族や友達から不平等だと聞くことが多いです。しかし、それはブラジル人だけのことでなく、たくさんの外国人にあてはまります。(中略)

私は、それぞれの国で独自の文化があり、ともに生きることが大切だと思います。文化が国を形成し、それが世界に広まっていくと思います。

写真でふり返ってみると ♥♥♥

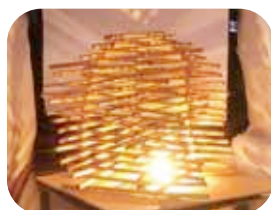
かんちゃんホットルーム

8月

西の湖の「ヨシ」を使った手作りの工作…8月25日(土)
お昼はカレーライス♪



「よし灯り」…幻想的な
感じですね！



9月

かんちゃん
あそび村(パート2)…お昼は、インドネシアの
ミーゴレン、おいしかったね♪



11月

前半は、
学生ボランティアさんによる
企画…ペットボトルでスノードーム
を作りました。後半は、朱佩金(シュ
ハイキン)さんから中国のお話を
聞きました。そして、ギョーザ作りを
教えてもらいました。



2018 多文化共生フェスタ in あづち 「後援」 ありがとうございました！

安土学区民生委員・児童委員協議会・安土地区社会福祉議会
社会福祉法人近江八幡市社会福祉協議会・近江八幡市教育委員会
公益財団法人近江八幡市国際協会・公益財団法人滋賀県国際協会

特集

日本で「びっくりしたこと」「感動(かんどう)したこと」
「教えてください」一枚の写真で企画

“多文化共生フェスタ in あづち”より



さくら とってもうつくしいです！
きのしたで パーティするのは
たのしそう！



ふとんは ベンリです。
へやがひろくつかえます。
にほんにくるまえ、ふとんやおいしいは
ドラえもんまんがで みました。



にほんのトイレ
さいしょは、つかい
かたがわかりません
でした？

ボタンがおおくて
なんのボタンです
か??

「あなたが みつけた『びっくり』や『かんどう』を 1まいの写真(しゃしん)でおしえてください。」 9~10 月にかけて、「かんちゃん」の小さな家」から地元の安土日本語教室をはじめ、県や市町の国際協会など関係機関等を通してよびかけてきました「一枚の写真企画」。

多文化フェスタのエンディングで紹介された「16枚の写真とメッセージ」は、「(参加した)私たちの心に響きました」「当たり前前に思っていることが、外国人の方には不便なことなんですね」などの感想が寄せられ、気づきと問い返しの機会になりました。多くの方々にご協力をいただき、ありがとうございました。

ご感想やメッセージをお待ちしています。



にほんは、じどうはんばいきがあちこちに
あります。ジュースやげんきんが
はいっていますが、めずみません
ちあんがいです。



ごみばこのつかいかたが
むずかしいです。
よくわかりません。



でんしゃのなかで、ゆびをさされたり、
いやなことをいわれたりします！
どうして？



交流のひろば

地域の民生委員さんからのメッセージ

- いろいろな人が気楽に思いが出せる場、集える場の提供が大切ですね。たくさんの目で見守っていけることが大事だと思います。
- 今まで出会ったことのない分野に出会い、地域の民生委員活動の枠を広げていけるように頑張りたいです。
- 「かんちゃんの小さな家」の事業内容を聞いて、理解を深めることが出来ました。私たちにお手伝いできることがあれば協力したいです。

※研修会の時に寄せられたものです(昨年 11 月)

●地域で居場所をつくっていくことが求められていますが、どう継続させていくかが大変で大切な課題だと思います。地域の診療所にも似たようなところがあるのかもしれませんが。

「かんちゃんの小さな家」には、2年前に訪れたことがあります。「小さな家」にたくさんの人が身を寄せ合って、ブラジルのお話などを聞いたり、おやつ「パステウ」を作ったりしました。ささやかながらも、「かんちゃんの小さな家」が地域の皆さんのホッとできる場所として、続いていくことを願っています。伊藤京一郎さん(長崎県)

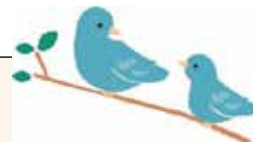


修復的対話(Restorative Justice)「RJサークル」

お互いを尊重する場での対話／その場を体験することで

／個を尊重する／互いを認め合う／そのような関係、文化を育む活動

クラス活動、PTA・地域・職場活動、また高齢者福祉の分野にも生かれます！



【写真は、研修会時の「RJサークル」の様子】

わが国での実践はまだ始まったばかりですが、児童領域に限らず高齢者領域にわたって調和的な人間関係を築くためのアプローチとして注目されている「修復的対話」。「スクールソーシャルワーク研究会しが」では、4年前から、毎年5～6回の講座・研修会を開催してきました。昨年は、受講者経験者による研修会のファシリテーターの体験や、日々の職場で活かしていく取り組みが芽生えてきました。（スクールソーシャルワーク研究会しが事務局）



修復的対話の源流に先住民の教えが

郭 理恵さん（NPO法人修復的対話フォーラム理事：大阪人間科学大学）

「ミタクエオヤシン」

修復的対話の源流には、各地の先住民と呼ばれる人々が古来より大切にしてきた、ある共通の世界観があります。一例として、北米先住民ラコタの人々の言葉に「ミタクエオヤシン」という言葉があります。これは、「すべては繋がっている」という意味で、彼らのお祈りの言葉でもあり、「私たちは私自身を取り巻くあらゆる生命の繋がりのなかで生かされている」という彼らの調和に基づく世界観が現されています。

トラブル発生は全体の調和が崩れた状態

例えば、もともと関係性の良かったAさんとBさんの間にトラブルがおこるとします。先住民の世界では、それはAさんとBさんだけの問題ではなく、彼らに繋がる人すべてに影響があることで、さらに、全ての人に要因があると考えられます。要するに、トラブル発生は全体の調和が崩れた状態で、トラブルそのものはメタファーとして現れ、そして、繋がりの中で調和をどうやって取り戻していくか、ということには、全ての人に責任があると考えられるのです。ですから、そこに関わる人全てが、AさんとBさんとの間に生じた問題を自分のこととして捉え、自分自身との繋がる要素を見つけ、全体の調和にむけて自分にできることを考えます。^

●初めて参加しました。ロールプレイは、学級づくりに必要な要素だと思いました。職業の違いもあり、いろいろな価値観の方たちと出会えたことが印象的でした。（中学校教員）

●顕在化している問題だけでなく、潜在している問題にも目を向けていかなければと思いました。（学生）

「いまの私」がどのような気持ちでいるのか 丁寧に言葉にして伝えていくことから

修復的対話にはそんなルーツがあります。どんなことでも、すぐ隣にいる人に話してみることから。その時、別の誰かの話をするのではなく、いま何がおこっているのか、その出来事によって自分にどんな影響があり、そして、「いまの私」がどのような気持ちでいるのか、ということを丁寧に言葉にして伝えていきます。問題はすぐには解決しないかもしれませんが、けれど、そうしているうちに、だんだん大切な人たちとの対話が増え、調和のなかで日々を過ごすことができることに気がつくようになります。

※郭理恵さんは、2015年からRJ講座の講師をお願いしています。

参加者の感想より （11月研修会）

●学校で「サークル」をしてみると、子どもたちが普段、一人ひとりの話を、いかに聞いてもらっていないか、に気づかされます。「サークル」のあと、子どもたちから「楽しかった、またやろう」という感想が聞かれ、やってよかったと思いました。日々の中で、なかなか話してくれない子どもも、安心して話せる場を作ると、自分の言葉で話してくれることがわかります。

（スクールソーシャルワーカー）

●対立した関係を修復することの難しさを感じている日々です。今日のロールプレイは、改めて相手の立場に立つことの難しさを感じました。

（小学校養護教諭）



相談会のご案内

かんちゃん と まい子さんの 子ども・若者相談ルーム

子育てや学校生活・卒業後の進路等で
困ったこと、気になることがあれば
声をかけてくださいね!

2月13日(水) 13:00~17:30

3月16日(土) 13:00~17:30

定例日以外は、個別に相談に応じます。

保護者・支援の方の相談も可(要予約)

お問合せ(かんちゃんの小さな家

携帯090-3708-3315)



学びのご案内

スクールソーシャルワーク研究会しが主催

2018年度 修復的対話(RJ)研修会

サークル・ファシリテーションの実践編

~「子どものもめ事」を題材にしたロールプレイ
そのとき行うファシリテーション~

第5回 2019年2月16日(土)

◇会場 コミュニティセンターやす
(野洲市小篠原 2142 TEL. 077-586-3846)

◇講師 郭 理恵さん
(NPO法人修復的対話フォーラム理事)

かんちゃんの小さな家 友の会 2019年度 会員募集中!

~応援カンパもよろしくお願いします~

個人会員 1口 2,500円・団体会員 1口 10,000円

友の会・活動支援カンパの振込口座
振込先銀行 滋賀銀行 安土支店
□座種別 普通 □座番号 403489
□座名称 かんちゃんの小さな家
代表 佐子 完十郎

♥「かんちゃんの小さな家 ホームページ」

<https://kancyan-house.com/>

交流会のご案内



◆参加費:子ども 100円・おとな 300円

第35回 2月23日(土) 10:30~13:00

会場 安土コミュニティセンター

そば打ち体験・ぶんぶんゴマを作ろう

※1月19日に予定していました「そば打ち
体験交流会」は、主催者の都合で2月に延
期させてもらっています。ご迷惑をおかけ
しましたことをお詫び申し上げます。

第36回 3月10日(日) 10:30~13:00

会場 常楽寺老人憩いの家(近江八幡市安土町)

せせらぎ(編集後記)

●「子どもに必要な三つの『間』が、現代の子ども
から奪われ、失われている気がしてならなかった。」
「育つためのユックリとした『とき(時間)』『あ
そんだりケンカしたりしながら育ち合う大切な『友
だち(仲間)』『さまざまなものに触れ合ったり、
安心して寝ころんだり、走り回ったりできる『居場
所(空間)』・・・野本三吉さんは、著書『子ども
とつくる地域(まち)づくり』のなかで、このよう
に述べています。「現代の子ども」とは、野本さん
が横浜で相談業務をされていた 1970 年代の話で
す。●今回のかんちゃん通信「ほほ笑み号」は、「子
どもたちに 気づきと発見・感動を♪」そして、「ち
がひ(多様性)・つながり(結)」を、大切な“道し
るべ”として紡いできました。「多文化共生 in あづ
ち」の思いが、びわ湖のさざなみのように、やさし
く多くの方々に届きますように。●「育つための
ユックリとした『とき』『育ち合う大切な『友だち
(仲間)』『安心できる『居場所』は、時空を超え
て光を放っています。かんちゃんの小さな家の活動
は、それを「取り戻す」のではなく、
「つくり出す」営みですね。(か)



※次号「第12号」は、6月の発行予定です



ホットフィールド 子ども・若者支援 ヒューマンネット

かんちゃんの小さな家

〒521-1351 滋賀県近江八幡市安土町常楽寺956-2

携帯 090-3708-3315(代表 佐子) FAX 0748-46-3283

e-mail srmq61299@nike.eonet.ne.jp